

## 功労賞：明畠高司（前山口東京理科大学長、東京工業大学名誉教授）

「当研究会の創設・発展と国際的な地位確立に向けた貢献」



明畠高司氏は、長年、有機系廃棄物のガス化研究に取り組むと同時に、廃棄物学会や環境科学会等の設立に携わり、また初代会長として当研究会の設立や第1回の国際会議(1999年仙台)の主催する等、プラスチックリサイクル関連の研究者および企業との交流促進に貢献されました。

## 研究功績賞：阪田祐作（岡山大学教授）

「廃プラスチック分解油の脱ハロゲン精製プロセスの開発とその実用化に関する研究」



阪田祐作氏は、廃プラスチックの分解において生成物中の残留塩素および臭素を除去する革新的な実用触媒を開発しました。また、新エネルギー・産業技術総合開発機構(NEDO)の「廃プラスチック分解油の深度脱塩素・脱臭素精製触媒および油化プロセスの実用化」プロジェクトを成功に導き、ポリ塩化ビニルや臭素系難燃剤を含む一般廃プラスチックの油化の実用化に大きく貢献されました。

## 技術進歩賞：橘 秀昭 技術顧問

### 「一般廃プラスチック油化プロセスの実用化技術の確立」



橘秀昭氏は、新潟プラスチック油化センターの責任者として実証試験に取り組み、50万人規模の大都市から出る都市ごみ系の廃プラスチック（ポリ塩化ビニルを含む）を安全、無公害に処理することを成功に導きました。また、札幌プラスチックリサイクル(株)の責任者として事業に取り組み、世界最大の廃プラスチック油化施設（年間1万5千トン）の建設・運転に尽力されました。

## 技術功績賞：帝人ファイバー(株)

（代表取締役社長：野口泰稔 代理出席：鈴岡 章黄）

### 「DMT への解重合を経由する使用済み PET 樹脂の再生技術の実用化」



帝人ファイバー(株)は、自社の工程屑を対象にエチレングリコールとメタノールを用いた2段分解法を用いてPETの回収を行ってきました。しかしこの方法では、異種ポリマーおよび染料・顔料等添加物・加工剤の混入に充分対応できない問題があったので、一般廃棄物が含有する不純物に対応できる技術開発を行い、現在、年間能力6万2千トンの設備を稼働しています。本法は、基礎技術としては既知のものではありますが、汚染回収された一般廃棄物のPET製品を再生するこ

とが可能となり、これによってボトル to ボトルの水平リサイクルが実用化されたことは大いに評価すべき特色であります。